

通常の学級に在籍する発達障害の特性のある生徒が 学び方を選べる授業づくり



京都市総合教育センター 研究課 研究員
西村 和浩

普通学級において知的な遅れはないものの学習面 又は行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合

(令和4年度 文部科学省全国調査 小・中合わせて)

8.8% (3.5/40人)

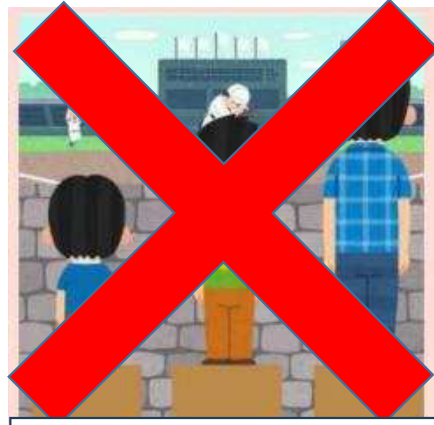
(現在の勤務校 令和5年度調査)

11.7% (4.7/40人)

授業で目指す姿



配慮のない状態



平等だが
配慮が不足した状態

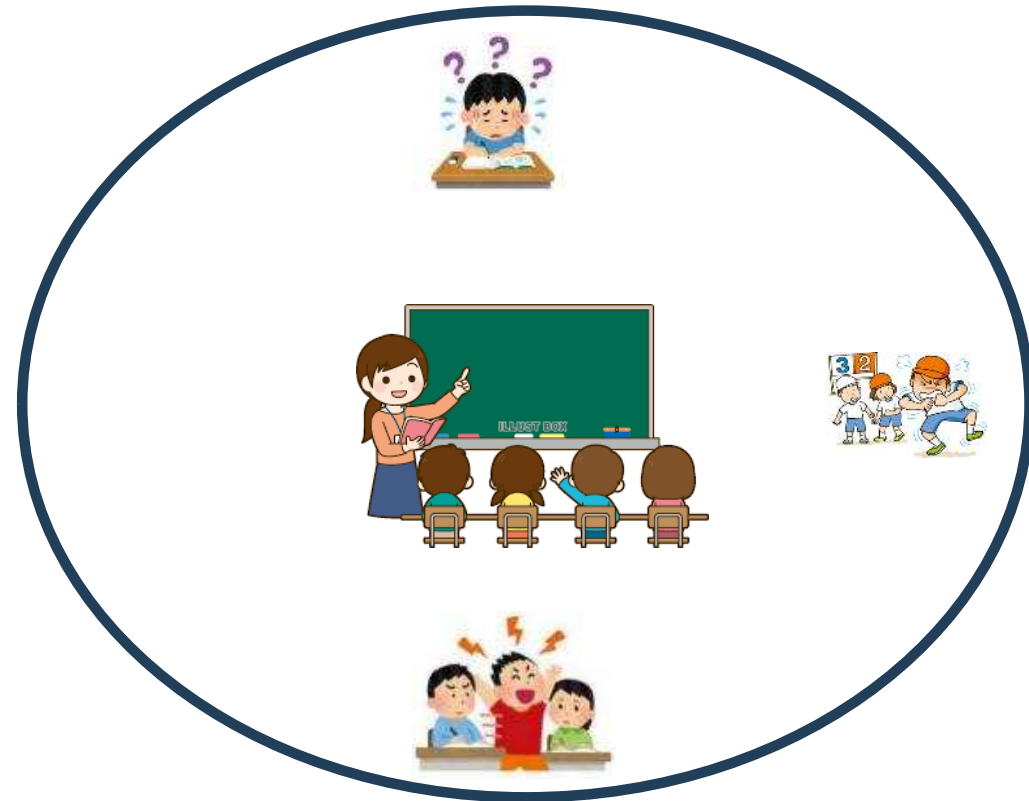


個別に公平な配慮が
行われた状態

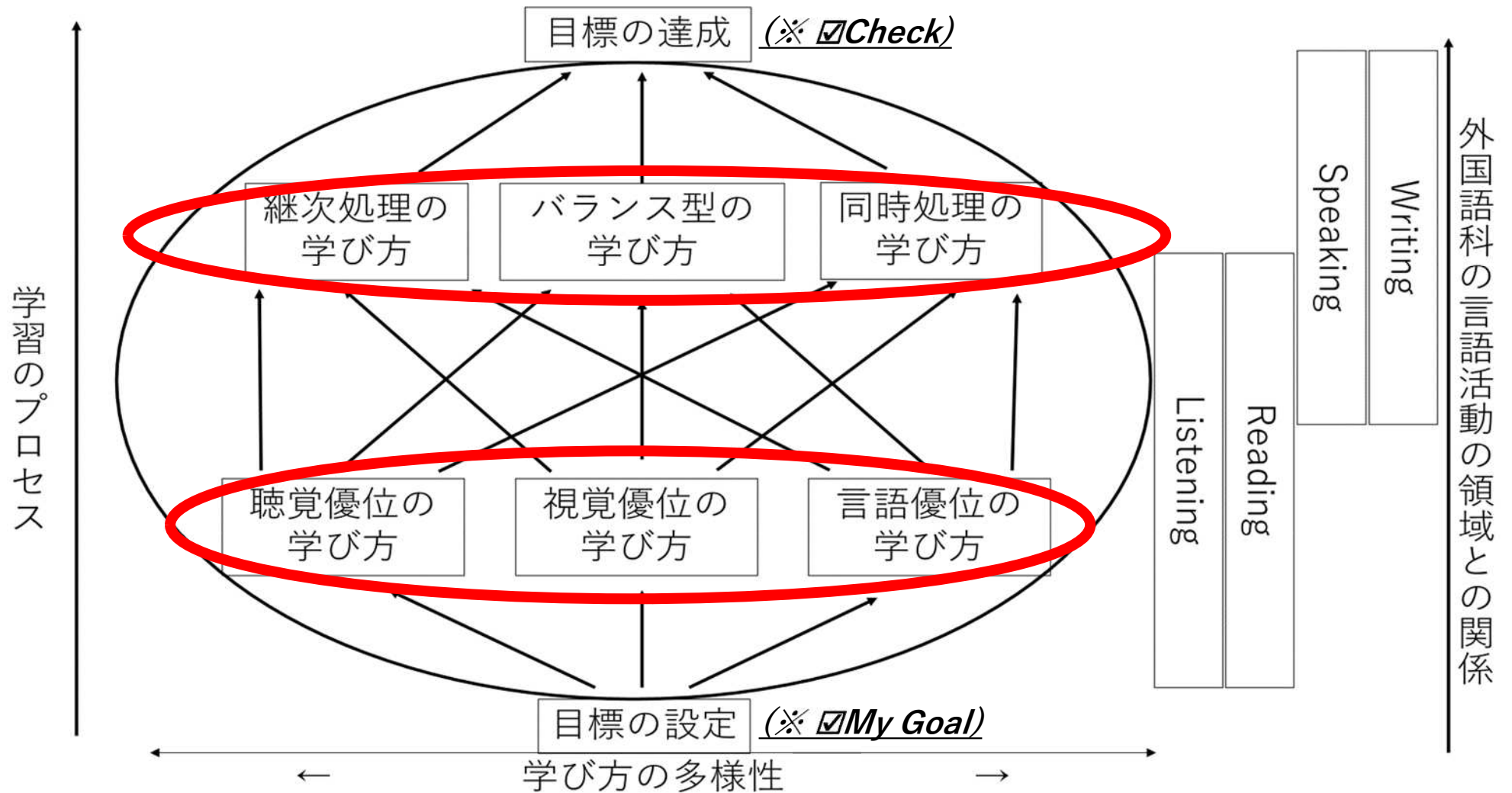


全員にとって
学びやすい環境

学び方を選べる授業



目標達成へ向けた「学び方の違い」



「学び方を選べる授業」

授業UD化

一斉授業において
誰もが学習に取り組み学
習目標の達成を目指せる
ようにするための
授業づくり

【指導者主体】

指導者の工夫

教材の工夫

言葉掛けの工夫

「授業UD化」 → 授業のユニバーサルデザイン化 (日本授業UD学会による)

教材の工夫（具体例）

	視覚優位	聴覚優位	言語優位
<p>時間配分の明示 ・ 与える情報の精選</p>	<p>○黒板への掲示 ①本時の目標 ②活用する技能 ③時間配分 ④活動内容</p>	<p>○掲示・配布内容の 音声による伝達</p>	<p>○タブレット端末による ①本時の目標 ②活用する技能 ③時間配分 ④活動内容 を明記した My Goalの配布</p>
<p>視覚教材の工夫 ・ 学習ルールの明示</p>	<p>○使用するワーク シートの色分け (例) ①黄色 ②青 ③緑</p>	<p>○ワークシートの色と その名付けによる 使用するシートの音声指示</p>	<p>○色付けしたワークシート の役割別の名付け (例) ①黄色→会話練習 (Q and A) ②青 →新出単語 (New Words) ③緑 →重要語句 (Daily Phrases)</p>

「学び方を選べる授業」

UDL

オプションを活用した
「子どもの学び本位」
の授業づくり

【学習者主体】

選択肢

自分が学習しやすい環境
自分が使いやすい教材
自分が目指すべき目標

「UDL」 → 学びのユニバーサルデザイン化 (CAST (アメリカの非営利教育研究開発団体) による)

選択肢の具体例

学習しやすい環境	学習相手	学習しやすい教材	学習に向かいやすい目標
教室内の任意の場所	自分が力を発揮しやすい相手	認知特性に合わせた使いやすい教材	本時の目標に対応した自己目標
			<p>My Goal</p> <p>A : ◯スライドを相手に見せながら英語のみを使ってオススメのお土産を伝えることができた。 ○「アイデア発表方法」を他の班の人に頼ってもらえた。</p> <p>B+ : スライドを相手に見せながら英語のみを使って英文でオススメのお土産を伝えることができた。</p> <p>B : スライドを相手に見せながら英語のみを使って文や単語でオススメのお土産を伝えることができた。</p> <p>B- : スライドを相手に見せながら英単語やジェスチャーを使って、英語のみでオススメのお土産を伝えることができた。</p> <p>C : スライドを相手に見せながら台本や他の人の助けがあればオススメのお土産について伝えることができた。</p>

DISC (Diversity Inclusion System Class)

「学び方を選べる授業」

授業UD化

一斉授業において
誰もが学習に取り組み学
習目標の達成を目指せる
ようにするための
授業づくり

【指導者主体】

指導者の工夫

教材の工夫

言葉掛けの工夫

UDL

オプションを活用した
「子どもの学び本位」
の授業づくり

【学習者主体】

選択肢

自分が学習しやすい環境

自分が使いやすい教材

自分が目指すべき目標

「授業UD化」 → 授業のユニバーサルデザイン化 (日本授業UD学会による)

「UDL」 → 学びのユニバーサルデザイン化 (CAST (アメリカの非営利教育研究開発団体) による)

DISC授業の中でのUDL・授業UD化

時間	学習活動	選べること (UDL)	授業UD化
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動 (ペアワーク) ①単元の語句練習 ②会話練習 ③日常単語練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動の目標に対応するMy Goal ・ 学ぶ場所 ・ 学ぶ相手 ・ (重点的に)学ぶ語句 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間配分の明示 ・ 与える情報の精選 ・ 学習ルールの明示
30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音読練習 ・ 録音 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標に対応するMy Goal ・ 学ぶ場所 ・ 学ぶ相手 ・ 学ぶ順番 ・ 目標達成度の自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間配分の明示 ・ 視覚教材の工夫
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 録音した範囲の内容理解 (ワークシートで2～3問出題) ※知・技の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標に対応するMy Goal 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間配分の明示 ・ 学習ルールの明示

「帯活動」でのDISCの実際

2年英語 (Unit6) **Q & A パターン④**

Question	&	Class	No.
知事先生は澤先生より背が高いですか。	Is Mr. Asakura taller than Mr. Sawa?	1	Yes, he is. / No, he isn't.
あなたの家族の中で一番おもしろいのは誰ですか。	Who is the <u>tallest</u> in your family?	2	I am. / My grand father is.
授業を勉強することと音楽を勉強することでは、どちらがより面白いですか。	Which is more <u>interesting</u> , studying P.E. or studying music?	3	<u>Studying P.E.</u> is (more interesting).
あなたにとって一番楽しいのは何ですか。	What is the <u>most fun</u> for you?	4	<u>Playing basketball</u> is the most fun for me.
犬と猫では、どちらが好きですか。	Which do you like better, dogs or cats?	5	I like <u>dogs</u> better than cats.
一番好きな季節はいつですか、それはなぜですか。	What <u>season</u> do you like the best and why?	6	I like <u>winter</u> the best because I can ski.
あなたの身長はどれくらいですか。	How tall are you?	7	I am <u>155 centimeters</u> tall. I am as tall as <u>my sister</u> .
大きいサイズをお見せしましょうか。	Shall I show you a <u>bigger</u> one?	8	Yes, please. It's too <u>small</u> .
どんな映画が好きですか。	What kind of <u>movies</u> do you like?	9	I like <u>action movies</u> .
どのくらいの頻度で料理しますか。	How often do you <u>cook</u> ?	10	Every day. / Twice a week. / ...

Question チェック項目

A: 本文以上の下線をアレンシし、すべて日本語で読み取ることができた。
 B: 3つ以上の下線をアレンシし、半分以上を日本語で読み取ることができた。
 C: プリントを見ながら、本文以上の下線をアレンシして理解することができた。
 D: プリントを見ながら、3つ以上の下線をアレンシして理解することができた。
 E: プリントを見ながら質問に答えることができた。

チェック表	Question 評価	正誤	Answer 評価
	A B C D E		A B C D E
	A B C D E		A B C D E
	A B C D E		A B C D E
	A B C D E		A B C D E

Unit6 新出語句 class No. _____

新出語句	日本語	新出語句	日本語
1 research	～を研究する, 調査する	19 speaker	話す人, 演説者
2 topic	話題, トピック	20 content	中身, 内容
3 trivia	雑学的な知識	21 delivery	話しぶり
4 quiz	クイズ	22 contact	接触
5 than	～よりも	23 spoke	speakの過去形
6 neighbor	近所の人, 隣人	24 clearly	はっきりと
7 action	アクション, 行動	25 data	資料, データ
8 comedy	喜劇, コメディ	26 slide	スライド
9 animated	アニメの	27 letter	文字
10 fiction	小説, フィクション	28 row	列
11 more	(～より) もっと	29 comfortable	快適な
12 most	いちばん～, もっとも～	30 expensive	高価な, 高い
13 answer	～に答える	31 goods	商品, 品物
14 graph	グラフ, 図表	32 size	サイズ, 寸法
15 percent	パーセント	33 price	値段
16 story, stories	話, 物語	34 medium	中くらいの
17 horror	恐怖	35 customer	客, 顧客
18 feedback	意見, フィードバック	36 shall	Shall I? ~しましょうか

チェック項目

A 下線の英語15語+5語(計20語)のスペルを日本語をランダムに言われて答えることができる。(2分)
 B 30個以上の新出単語を日本語をランダムに言われて答えることができる。(2分)
 C 20個以上の新出単語を日本語をランダムに言われて答えることができる。(1分30秒)
 D 36個すべての英語を日本語を見ずに読むことができる。(1分30秒)
 E ペアの人に助けてもらったり、ルビをふって全て読むことができる。

チェック日	評価	チェック者
1 /	A B C D E	
2 /	A B C D E	
3 /	A B C D E	
4 /	A B C D E	

【形容詞・副詞】比較変化30

	意味	原級	比較級	最上級
1	寒い・冷たい	cold	colder	the coldest
2	暖かい	warm	warmer	the warmest
3	暑い・熱い	hot	hotter	the hottest
4	速い	fast	faster	the fastest
5	素晴らしい	great	greater	the greatest
6	難しい・熱心に	hard	harder	the hardest
7	高い	high	higher	the highest
8	背の高い	tall	taller	the tallest
9	背の低い・短い	short	shorter	the shortest
10	長い	long	longer	the longest
11	新しい	new	newer	the newest
12	古い	old	older	the oldest
13	親切な	kind	kinder	the kindest
14	軽い	light	lighter	the lightest
15	重い	heavy	heavier	the heaviest
16	大きい	big	bigger	the biggest
17	大きい・広い	large	larger	the largest
18	小さい	small	smaller	the smallest
19	強い	strong	stronger	the strongest
20	すてきな	nice	nicer	the nicest
21	安全な	safe	safer	the safest
22	簡単な・飾り気のない	simple	simpler	the simplest
23	幅の広い	wide	wider	the widest
24	忙しい	busy	busier	the busiest
25	早く	early	earlier	the earliest
26	簡単な	easy	easier	the easiest
27	幸せな	happy	happier	the happiest
28	悪い	bad	worse	the worst
29	よい/よく	good / well	better	the best
30	多くの	many, much	more	the most

チェック日	評価	チェック者
4 /	A B C D E	
3 /	A B C D E	

DISC（『読むこと』の場合）

時間	学習活動	学び方を選べる具体	授業UDとの関わり
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動（ペアワーク） ①単元の語句練習 ②会話練習 ③日常単語練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動の目標に対応するMy Goal ・ 学ぶ場所 ・ 学ぶ相手 ・ (重点的に)学ぶ語句 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間配分の明示 ・ 与える情報の精選 ・ 学習ルールの明示
30分	<div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #fff9c4;"> <p style="text-align: center;">【読む】授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読 ・ 内容理解 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標に対応するMy Goal ・ 学ぶ場所 ・ 学ぶ相手 ・ 学ぶ順番 ・ 目標達成度の自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間配分の明示 ・ 視覚教材の工夫
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ <input checked="" type="checkbox"/> Check ・ 振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標に対応するMy Goal 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間配分の明示 ・ 学習ルールの明示

「音読」でのDISCの実際

教材：教科書本文の見本が入った「音声シート」
→速度を変更することができる。
ヘッドセットを使用し個人で何度でも
聞き直すことができる。



- ①「録音シート1枚目」 (教科書の本文)
- ②「録音シート2枚目」 (付箋で新出単語を隠したシート)
- ③「録音シート3枚目」 (ストーリーの中心となるフレーズを隠したシート)
- ④「録音シート4枚目」 (日本語で本文の要約がされたシート)
- ⑤「録音シート5枚目」 (本文の場面スライド)

時間内に自分ができるところまでのシートに英語を録音し提出する。

時間内 (30分間) は、教室内であれば「場所・学習相手・挑戦するシート・順番・費やす時間」を自由に選ぶことができる。

My Goal ☑ Check

音読チェック (Unit O-Δ)

- A : Bの評価を満たし、すべてのカードの音読を録音できる。
⑤は教科書など何も見ずに録音できた。
- B+ : カード①～④の音読を録音できている。
1枚目の音読で読み方の間違いが7つ以内である。
- B : カード①～③の音読を録音できている。
1枚目の音読で読み方の間違いが7つ以内である。
- B- : カード①②の音読を録音できている。
1枚目の音読で読み方の間違いが7つ以内である。
- C : カード①の音読を録音できている。

授業のサイクル

☆「My Goal」

音読チェック (Unit○-△)

- A : Bの評価を満たし、すべてのカードの音読を録音できる。
⑤は教科書など何も見ずに録音録音できた。
- B+ : カード①~④の音読を録音できている。
1枚目の音読で読み方の間違いが7つ以内である。
- B** : カード①~③の音読を録音できている。
1枚目の音読で読み方の間違いが7つ以内である。
- B- : カード①②の音読を録音できている。
1枚目の音読で読み方の間違いが7つ以内である。
- C : カード①の音読を録音できている。

☆「check」

↓
「フィードバック」

☆『聞くこと』『読むこと』を通じた「活用・思考」

○配布された教材をもとに録音へ向けた準備を行う。



【目標達成へ向けて選べる学び方】

- ・音声を繰り返し聞ける。
- ・繰り返し練習できる。
- ・周りの人と相談できる。
- ・目標を決めて取り組める。

☆『読むこと』に関する「表現」

○時間内に自分のペースで録音を(繰り返し)行う。



【目標達成へ向けて選べる学び方】

- ・何度も挑戦できる。
- ・聞き直して確認できる。
- ・録音したものを聞き直せる。

音読の達成状況

音読チェック (Unit O-△)

- A : Bの評価を満たし、すべてのカードの音読を録音できる。
⑤は教科書など何も見ずに録音録音できた。
- B+ : カード①~④の音読を録音できている。
1枚目の音読で読み方の間違いが7つ以内である。
- B : カード①~③の音読を録音できている。
1枚目の音読で読み方の間違いが7つ以内である。
- B- : カード①②の音読を録音できている。
1枚目の音読で読み方の間違いが7つ以内である。
- C : カード①の音読を録音できている。



生徒ア: すべて達成はCだが、B-やBに近づいている。

◎練習時間の増加

◎7回目は授業中に録音のやり直しをする姿

生徒工: 前の授業が移動教室の時に授業内に間に合わない傾向が見られた。

7回目は言葉がけを行うと、移動教室後の授業でもスムーズに取り組み始めることができた。



焦点化生徒	特性	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
生徒ア	中度発達遅滞 多動傾向	未提出	c	c	c	c	c	c
生徒イ	注意欠如 言葉での指示が通りにくい	c	c	c	c	授業後に提出	c	c
生徒ウ	言葉での指示が通りにくい	授業後に提出	b	c	授業後に提出	授業後に提出	授業後に提出	b-
生徒工	文字での指示が通りにくい	授業後に提出	授業後に提出	授業後に提出	c	c	授業後に提出	c
生徒オ	学力A層	b	b+	b+	b+	b+	b+	a
生徒カ	長欠傾向	欠	欠	欠	欠	欠	欠	c

DISC（『書くこと』の場合）

時間	学習活動	学び方を選べる具体	授業UDとの関わり
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動（ペアワーク） ①単元の語句練習 ②会話練習 ③日常単語練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動の目標に対応するMy Goal ・ 学ぶ場所 ・ 学ぶ相手 ・ (重点的に)学ぶ語句 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間配分の明示 ・ 与える情報の精選 ・ 学習ルールの明示
30分	<div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #fff9c4;"> <p style="text-align: center;">【書く】授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマを理解し 意見を書く </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標に対応するMy Goal ・ 学ぶ場所 ・ 学ぶ相手 ・ 学ぶ順番 ・ 目標達成度の自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間配分の明示 ・ 視覚教材の工夫
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標に対応するMy Goal 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間配分の明示 ・ 学習ルールの明示

「意見文を書く活動」でのDISCの実際

教材：ワークシート

→設定した目標によって「自分だけで行う」か
「指導者や友人の助けを求めるか」
「どの教材を使って行うか」を決めることができる。

Today's Goal テーマを理解し、自分の意見を整理して書くことができる。

Practice 次のテーマに対して、自分の意見を5文で書いてみよう。(20分)

A: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけでミスなく書くことができた。
B+: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけで書くことができた。(ミス1文)
B: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけで書くことができた。
B-: 先生や友だちに聞きながら、5文書くことができた。
C: 先生や友だちに聞きながら、1文~4文書くことができた。

My Goal → 先生を呼んで self check → Teacher's check

- ① 「教科書 関連ページ (教科書表現の活用)」
- ② 「帯活動シート (新出単語)」
- ③ 「帯活動シート (重要語句)」
- ④ 「帯活動シート (会話練習)」

Worksheet 2: Vocabulary list with red circle 2

Worksheet 3: Vocabulary list with red circle 3

Worksheet 4: Q & A patterns with red circle 4

時間内に自分の目標に合わせて書く活動を行い、ワークシートを提出する。

時間内 (30分間) は 教室内であれば「場所・学習相手・挑戦する目標 (変更可)

・順番・参考にする教材」を自由に選ぶことができる。

My Goal



Check

Today's Goal テーマを理解し、自分の意見を整理して書くことができる。

Practice 次のテーマに対して、自分の意見を5文で書いてみよう。(20分)

A: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけでミスなく書くことができた。

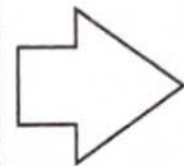
B+: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけで書くことができた。(ミス1文)

B: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけで書くことができた。

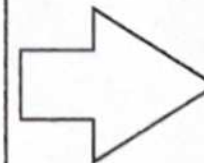
B-: 先生や友だちに聞きながら、5文書くことができた。

C: 先生や友だちに聞きながら、1文~4文書くことができた。

My Goal



手書きを終えて self check



Teacher's check

授業のサイクル

☆ 「My Goal」

Today's Goal テーマを理解し、自分の意見を整理して書くことができる。

Practice 次のテーマに対して、自分の意見を5文で書いてみよう。(20分)

A: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけでミスなく書くことができた。
B+: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけで書くことができた。(ミス1文)
B: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけで書くことができた。
B-: 先生や友だちに聞きながら、5文書くことができた。
C: 先生や友だちに聞きながら、1文~4文書くことができた。

My Goal → 書きを終えて self check → Teacher's check

☆ 『聞く』『読む』を通した「活用・思考」

○自分に合った目標のもと、テーマを理解し考えをまとめる。

【目標達成へ向けて選べる学び方】

- ・自分の目標に合わせて取り組むことができる。
- ・繰り返し質問ができる。
- ・周りの人と相談できる。

☆ 『書くこと』に関する「得た考えの表現」

○自分に合った目標のもと作文をする。

【目標達成へ向けて選べる学び方】

- ・目標に合わせて挑戦できる。
- ・帯活動で得た知識を含む様々な教材を使うことができる。

☆ 「Check」 + 「フィードバック」

Today's Goal テーマを理解し、自分の意見を整理して書くことができる。

Practice 次のテーマに対して、自分の意見を5文で書いてみよう。(20分)

A: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけでミスなく書くことができた。
B+: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけで書くことができた。(ミス1文)
B: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけで書くことができた。
B-: 先生や友だちに聞きながら、5文書くことができた。
C: 先生や友だちに聞きながら、1文~4文書くことができた。

My Goal → 書きを終えて self check → Teacher's check

作文でのMy Goal選択から評価まで

Today's Goal テーマを理解し、自分の意見を整理して書くことができる。

Practice 次のテーマに対して、自分の意見を5文で書いてみよう。(20分)

A: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけでミスなく書くことができた。
 B+: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけで書くことができた。(ミス1文)
 B: 先生や友だちに頼らず、教科書・ノート・ファイルだけで書くことができた。
 B-: 先生や友だちに聞きながら、5文書くことができた。
 C: 先生や友だちに聞きながら、1文~4文書くことができた。

My Goal → 手書きを添えて self check → Teacher's check



【第1回→第2回】
 生徒ア) 活動を理解し自ら質問する回数が増えた。

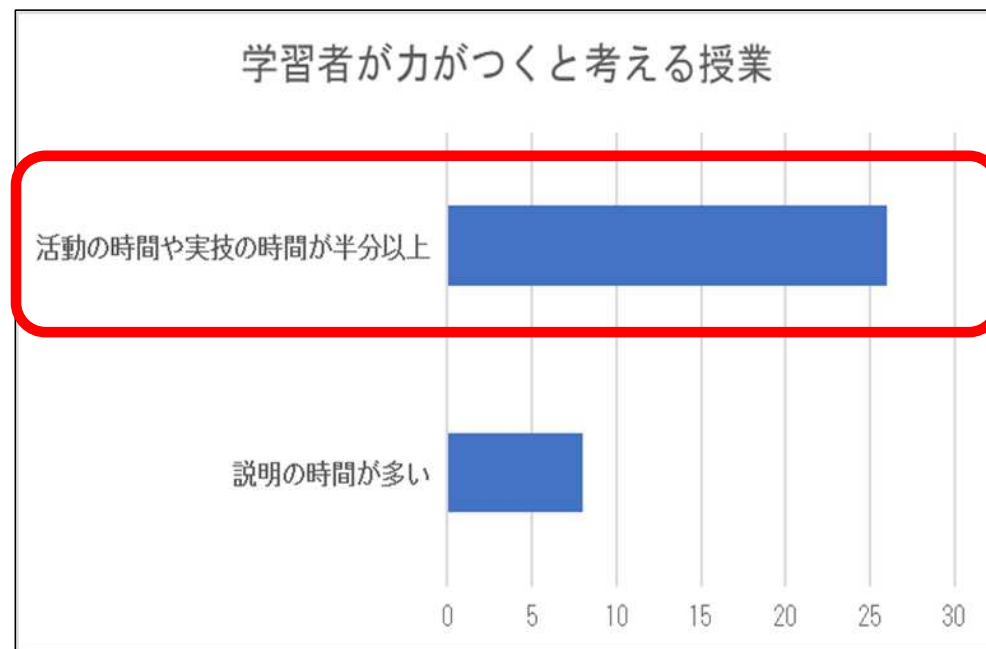
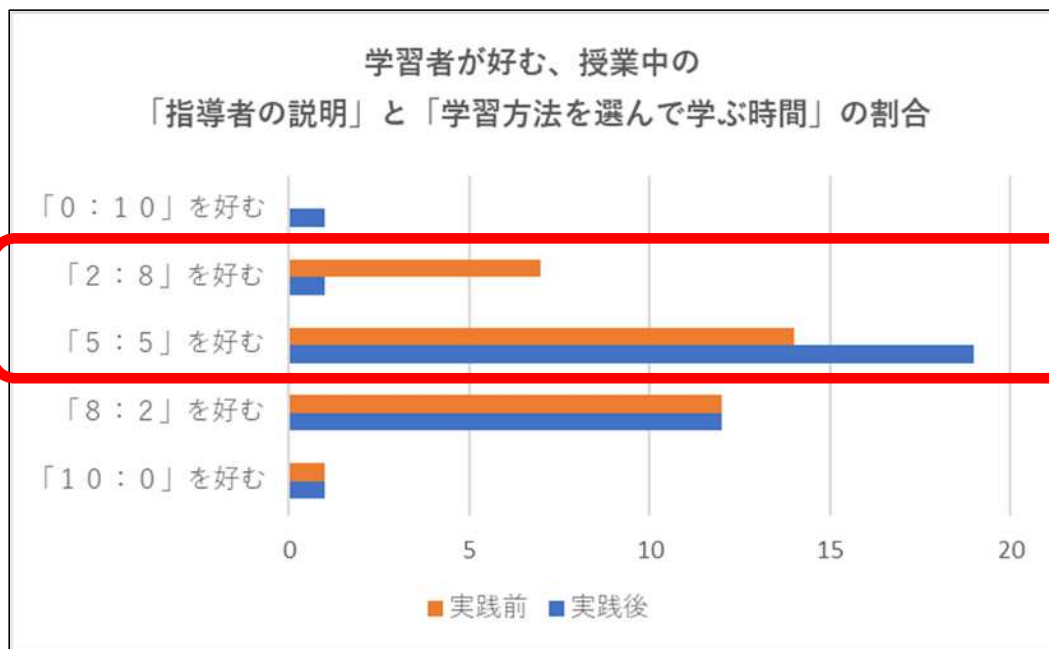
【第2回】
 生徒ウ・エ) 活動続けることで適切な目標を判断できた。
 生徒イ) 音声での指示だけでは不十分であり目標設定がうまくいかない様子が見られた。

※評価規準に着目したMy Goalの調整が今後も必要である。

焦点化生徒	特性	1回目 My Goal	1回目 Self Check	1回目 指導者評価	2回目 My Goal	2回目 Self Check	2回目 指導者評価
生徒ア	中度発達遅滞 多動傾向	C	C	C	<u>B</u>	A	C
生徒イ	注意欠如 音声での指示が通りにくい	C	C	C	<u>B</u>	C	C
生徒ウ	音声での指示が通りにくい	B	B	B	<u>B → B-</u>	B-	B-
生徒エ	文字での指示が通りにくい	B	B	C	<u>B → B-</u>	B-	B-
生徒オ	学力A層	A	A	A	<u>A</u>	A	A
生徒カ	長欠傾向	C	C	C	<u>B → B-</u>	B-	C

研究の 成果と課題

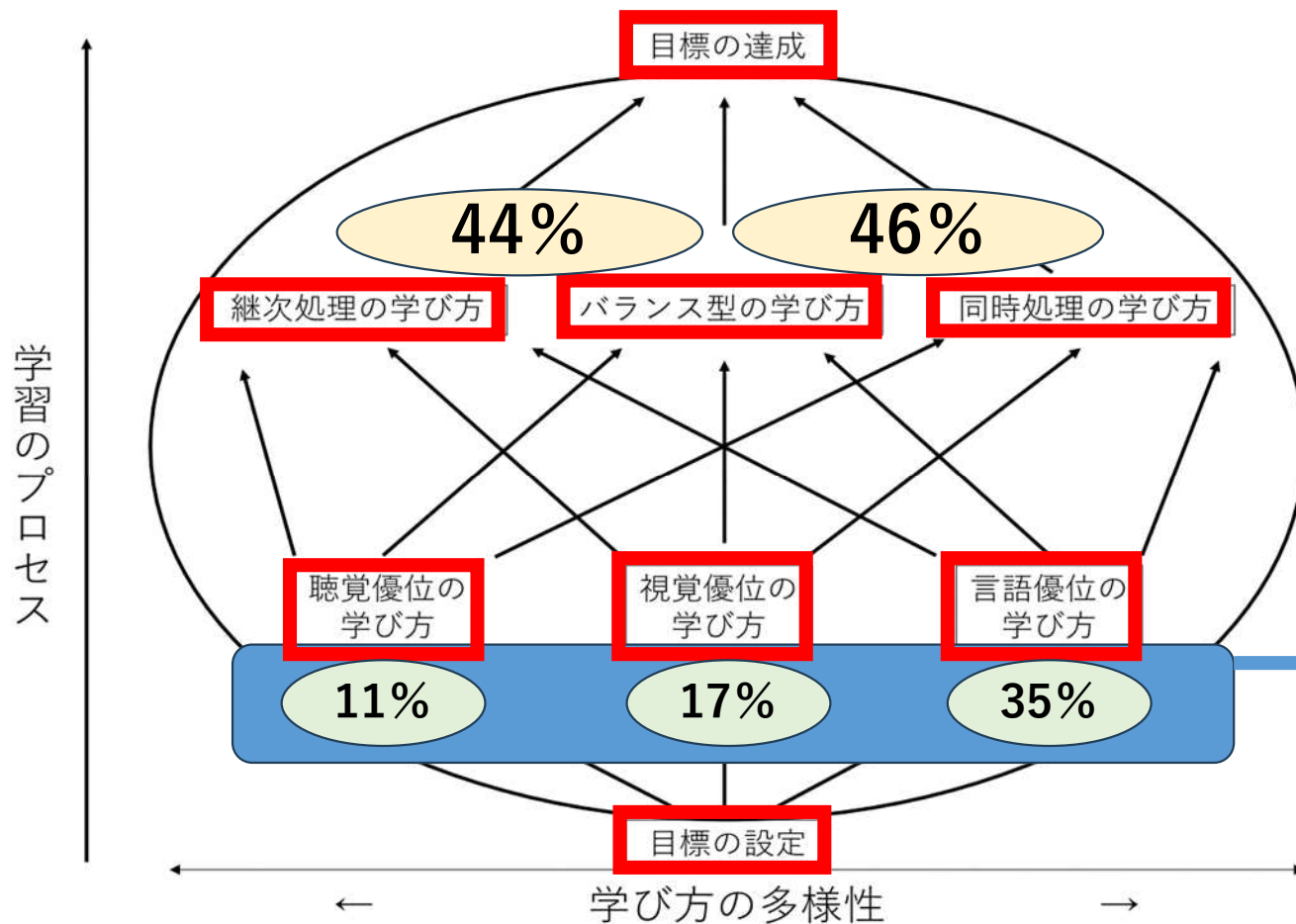
生徒アンケートより



【学習者が考える「指導者による説明」「学習方法の選択」】

- ・ 自由が多いことだけが望ましいわけではなく、指導者による適切な導き(伴走)は不可欠である。
- ・ 活動中に指導者が行うアドバイスや個別の支援が、学習者の目標達成のきっかけとなる場合もある。
- ・ 「自由に時間を使える授業」ではなく「これなら頑張れそうだと思う授業」
が『学び方を選べる』ことの本質ではないか。

成果と課題（全体）



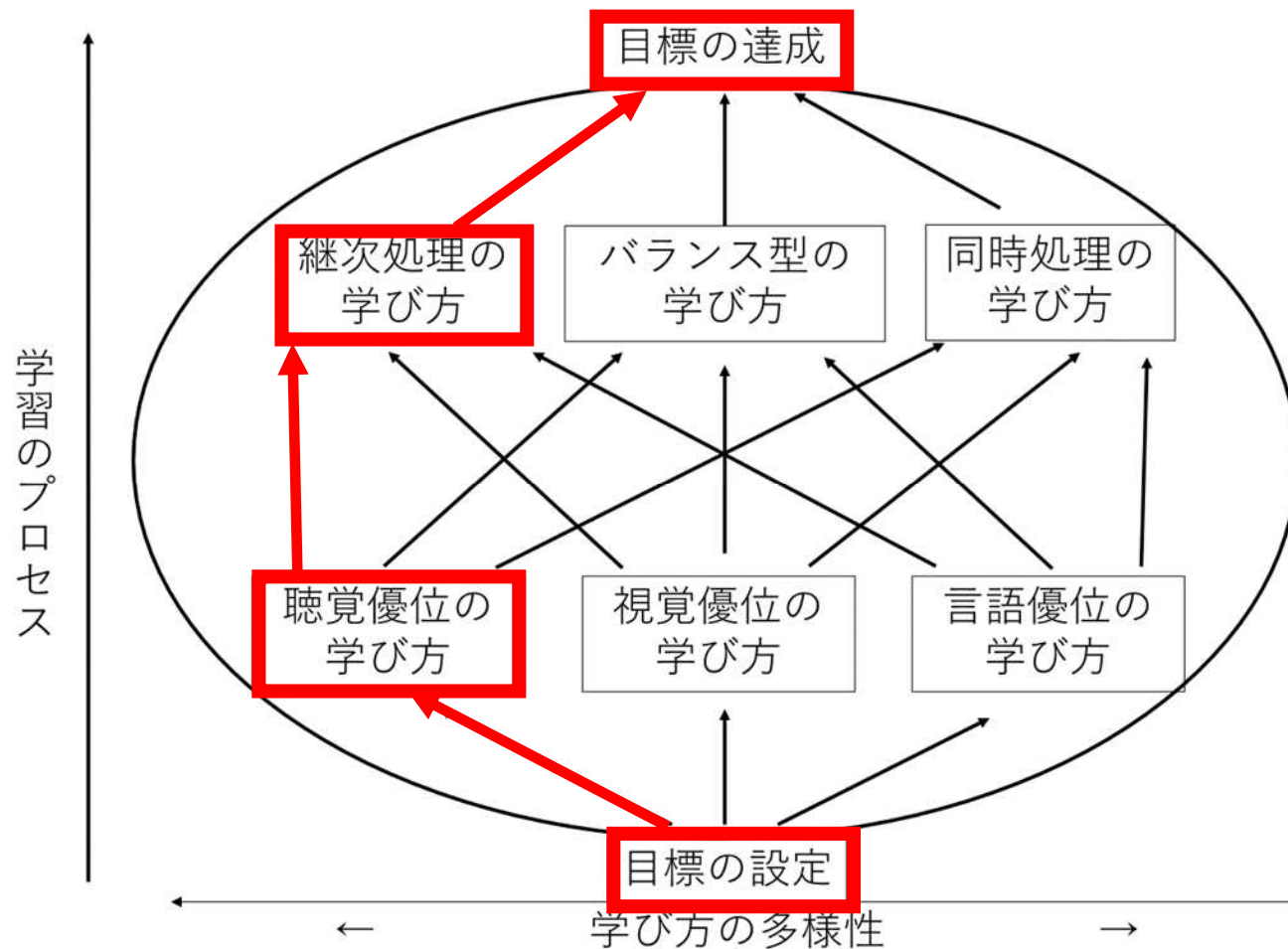
実践後の聞き取りより
(1/14~1/15に実施) (※N=36)

○My Goalを選べたことについては
88%の生徒が肯定的であった。

○残りの12%の生徒は学習方法を選択することには肯定的だが与えられた方法で学習することを望み「授業の目標を完璧に達成したい」と答えていた。

○聴覚・視覚・言語から情報を得ることを好むとする生徒の他に、全体の37%の生徒は「体験や体感」を通して情報を得ることを好むと答えた。

実践を通じた学習者の姿（生徒ア）



◎目標の選択による授業参加

△目標の理解度による参加度合の差異

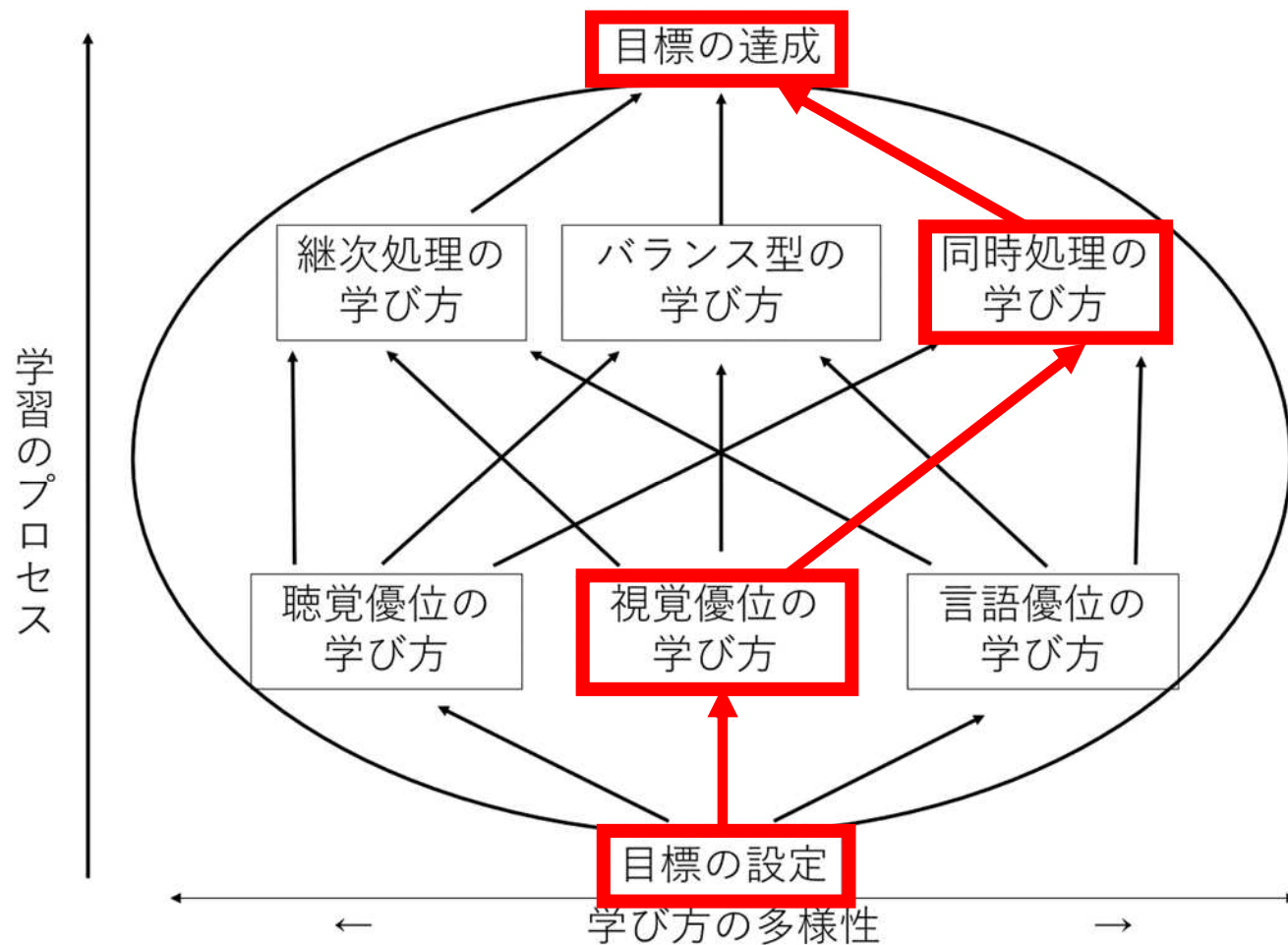
◎学びやすい方法の選択とパターン化された授業による落ち着き

△変更や初めての活動に対する不安

◎周囲の理解

△周囲の理解

実践を通じた学習者の姿（生徒イ）



◎自信がもてる教材の発見

△個別支援の優位性

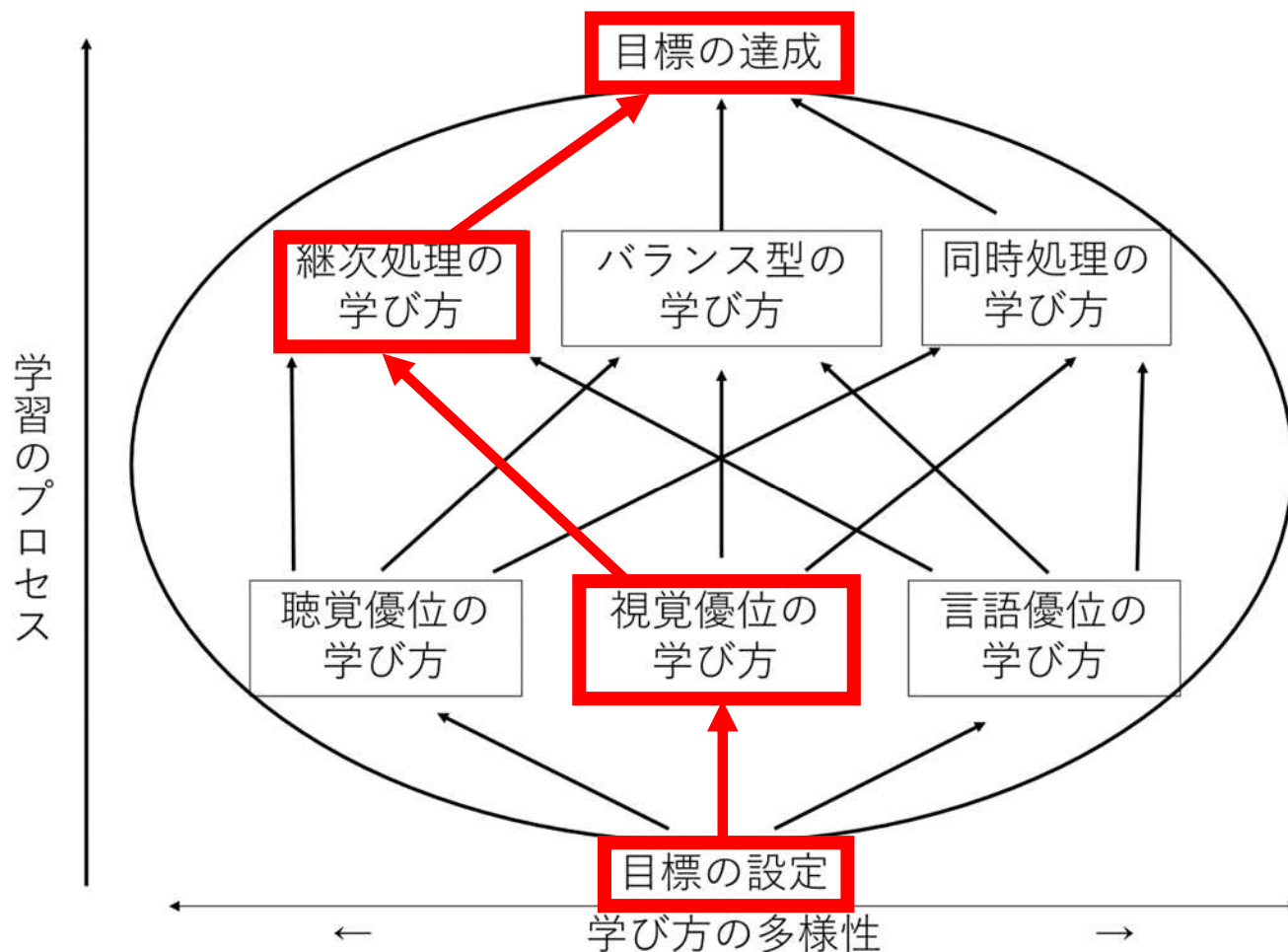
◎目標設定の開示と周囲のサポート

△目標設定基準の曖昧さによる混乱

◎本時の目標の達成

△学習した内容の長期的な定着

実践を通じた学習者の姿（生徒力） ※長欠傾向



◎パターン化された授業であることによる授業参加のしやすさ

△学習方法の選択には慣れが必要

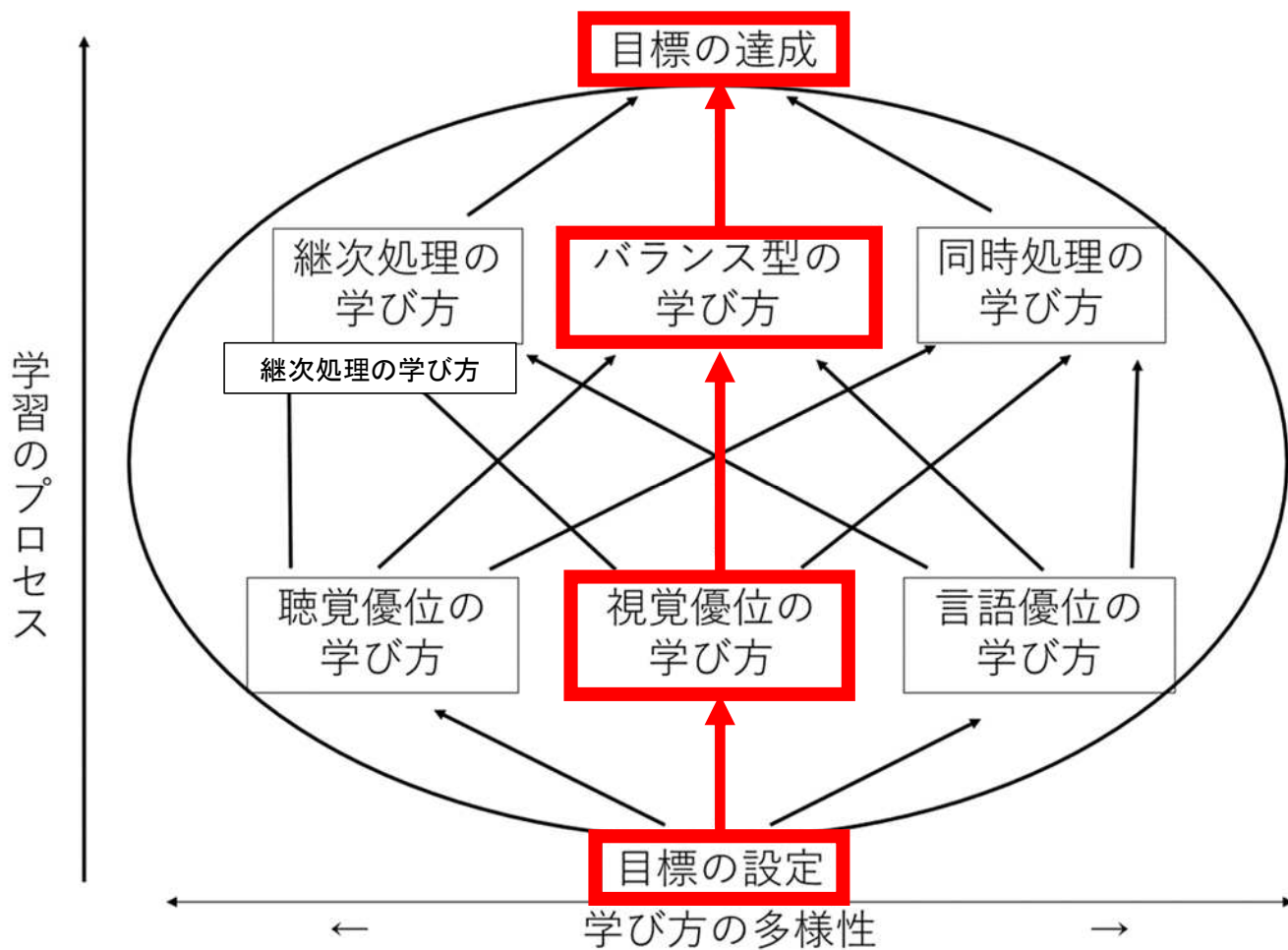
◎個別指導の時間確保

△個別指導の優位性

◎目標が選べることによる安心感

△目標の選び方の不安定さ

成果と課題（指導者の変容）



授業づくり

◎自分の認知特性への理解と生徒の特性と自分の特性の違いを理解した授業づくり

△自身の特性の表出

◎アセスメントの深化
「生徒の困り」
→「特性の違いによるバリア」

△自由進度学習との差異
他教科・領域への応用

まとめ

- 1、学習者の特性がMy Goalとつながったとき
学習者は安心して学ぶことができていた。

授業づくりの中心の1つがMy Goalの作成となる。

- 2、DISCは形を変えて様々な教科・領域で活用することができると考えられる。

授業ごとの生徒の様子を観察するため、ワークシート等の記述が重要である。

- 3、「学び方を選ぶこと」を選ばない生徒がいることにも留意する必要がある。

子どもが安心できる『説明』も大切である。

通常の学級に在籍する発達障害の特性のある児童生徒が 学び方を選べる授業づくり



京都市総合教育センター 研究課 研究員
西村 和浩